

町民みんなのひろば

わたしのひとこと



小川町のこれから



錦町 護守吉史

小川町もほかの自治体同様、少子高齢化・人口減少・後継者不足などの問題を抱えていると思われます。私の住んでいる街なかでも高齢化が進み、空き家も増えています。テレビや新聞などで、いろいろな自治体の取り組みを目にすることがあります、町も何らかの取り組みを行なわないと将来も明るくありません。

参考になる取り組みは取り入れることも大事だと思いますが、ほかの模倣だけではなく小川町独自の新しいまちあこしの取り組みを考えるべきだと思います。

例えば、町・民間・個人、老若男女を問わず、全ての人から幅広くアイデアを募集するというはどうでしょうか？ インターネットなどを使い、コンテスト形式にするのもおもしろいと思います。

町民が町の将来を考え、町と協力し、よりよくなれるよう実行・実現していくことが大切だと思います。



より住みよい町に



県議会議員 山崎正子

議会だよりに「地域の活力向上」と大きくありました。小川町に住み、20年以上の月日がたちました。

子育てをしていたころに比べ、年々地域でも子どもの数が少なくなっているのがわかります。空き家も増加しているように思います。

町全体の人口も減少する中、若い世代の方たちが子育てしやすいまちづくり、高齢者の方たちが充実した福祉を受けられるまちづくりが、今後の大きな課題ではないでしょうか。

今回、商品券が発売となりましたが、前回より利用できるお店も増え、町全体に活気が出れば、これも活力向上のひとつとなりますよね。これからも町民の声を少しでも多く聞いていただき、皆で知恵を出し合い、小川町がより住みよい町になっていくことを期待しています。

質問 駅北口、新ごみ処理場、新施設の実現は多額の費用がかかるため、町

て吉見町までの運搬費用である。その軽減案は、ごみ減量化しかない。今後の町の対応は、まさに、ごみ減量化が大きな課題で、また共同して何ができるか考えています。

サービスの低下を招くこと。また、将来の人口に合わせ40%の公共施設に縮小することだが、歳出減に特化するだけではなく、歳入拡大への取り組みはしないのか。

答弁 政策推進課長 税収が基本で、今後企業誘致から生まれる従業員増を考えています。

どの子も同じスタートラインに



柳田多恵子 議員

質問 10の改善を求めてきた。申請書に対する象となる家庭の収入など、具体的にモデルケースとして提示することや記入例を添付し、制度の内容をわかりやすくすることは。また、新1年生に支給される入学準備金の前倒し支給を。国の指

答弁 学校教育課長 針は「クラブ活動費・生徒会費・PTA会費」も就学援助の対象だが、当町も補助項目に加えることは。

質問 県内の学校給食費の助成状況は、①多子世帯への給食費の助成を、②寄居町が高校卒業までの医療費無料化を進める

◎生活困窮者自立支援制度の町の取り組み◎自衛隊への個人情報提供

就学援助制度説明書

ついては、他市町村と活動費を中心検討します。入学準備金の認定が6月になるため、ほかの方策についても検討を加えていきます。

市が18歳までの無料化。寄居町は秋ごろに始めると言っています。

答弁 学校教育課長 ①近隣では滑川町が全額無料、東秩父村が子ども一人当たり2000円の助成金があります。②と



戸口 勝 議員

何が何でも消滅させない執念がほしいな

まちづくり 人口減に対する処方箋は 実効性のある取り組みを図ります

質問 将来の町にとつて大きな負担は、ごみ処理場の老朽化対策費と新ごみ処理場の建設費、そし

動、本田技研の生産体制の遅れもあり、町みずからが営業をすればよいのですが、七夕まつりの運営・和紙体験学習センターの管理があり、人員が足りず厳しいです。

質問 10年前に掲げた事業所目標達成数が困難な状況であります。なぜ企業誘致に本腰を入れないのでしょう。

答弁 産業観光課長 10年前に掲げた事業所目標達成数が困難な状況であります。なぜ企業誘致に本腰を入れないのでしょう。

町民の声を町政に